

平成20年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について

東京都教育委員会が、平成21年1月15日に都内の小学5年生（中学2年生）を対象に実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」につきまして、本校の観点別正答率、調査結果の分析と考察、確かな学力向上に向けた今後の取り組みがまとまりましたのでお知らせします。

1 調査の目的

児童・生徒一人一人に確かな学力の定着と伸長を図る。

2 調査対象

調査対象学年	調査を実施した学校数	調査を受けた児童・生徒数
都内公立小学校第5学年（全員）	1316校	89,167名
都内公立中学校第2学年（全員）	632校	70,681名

3 調査の内容

- (1) 学習に関する意識調査
- (2) 「確かな学力」の伸長を図るための調査（問題解決能力等）

4 本校の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について

- (1) 「学習に関する意識調査」の結果は、昨年と同様の傾向が見られ、区の傾向と似ていた。授業が「楽しい」「少し楽しい」と答えた児童が多く、また、授業が「よく分かる」「分かる」と答えた児童も昨年度と同様に多かった。昨年度末に行った調査結果は、平成21年2月13日に結果を公表している。

今後より一層「分かる」、「楽しい」という実感をもてる授業を創造していくことが大切である。互いの考えを学び合うことで考えを深めていくような活動を設定し、児童が主体的に学習に取り組む指導の工夫を充実させていく。

- (2) 「確かな学力」の伸長を図るための調査（問題解決能力等）の結果は、「問題を発見する力」、「見通す力」、「適応・応用する力」「表現する力」は都の平均より上回っている。正答率が70%を上回っているのは、「問題を発見する力」、「表現する力」であり、おおむね良好といえる。その他の結果は63%を下回っている。今後、さらに確かな学力を伸ばしていくために、児童一人一人の学習状況に応じた指導の充実に努めていく。